日本高等教育学会第20回大会
プログラム

2017年 5 月27日（土）～28日（日）

東北大学

国立大学法人化—あらためてその功罪を問う

国立大学法人化の行方—自立と格差のはざまで
天野郁夫著
A5判・上製・三六八頁・三六〇〇円

国立大学法人の形成
大﨑仁著
四六判・上製・二四八頁・二六〇〇円

近刊予告

検証・国立大学法人化（仮題）
—制定過程と今日の状況：元学長の慙愧と提言
田中弘允・佐藤博明・田原博人著

国立大学システム
島一則著

大学・経営政策入門（仮題）
東京大学大学院大学経営・政策コース編

大学とは何か、改革はどこまで進んだが、内外の大学評価の動向、大学評価の体系化、評価の方向など総合的に論じる。

新刊

大学評価の体系化
生和秀敏・大学基準協会編
A5判・上製・四〇八頁・三二〇〇円

大学経営とマネジメント
新藤豊久著
A5判・上製・二五六頁・二五〇〇円

北大 教養教育のすべて—エクセレンスの共有をめざして
小笠原正明・安藤厚・細川敏幸編著
A5判・並製・二七二頁・二四〇〇円

「大学の死」、そして復活
絹川正吉著
A5判・上製・三三六頁・二八〇〇円

大学は社会の希望か—大学改革の実態からその先を読む
江原武一著
四六判・上製・二〇八頁・二〇〇〇円

原理原則を踏まえた大学改革を
—場当たり策からの脱却こそグローバル化の条件
舘 昭著
四六判・上製・二二四頁・二〇〇〇円

最新刊

放送大学に学んで—未来を拓く学びの軌跡
放送大学中国・四国ブロック学習センター編著
四六判・並製・三一二頁・二〇〇〇円

日本最大規模の9万人が学び将来の大学像を先取りした大学の赤裸々な声が聞こえてくる。

いまなすべきことは何か 大学教育の在り方を考える

寺﨑先生が、今求められる、大学関係者・教員・職員の在り方を長年の豊かな大学経験から総合的かつきめ細かに語る。

最新刊

21世紀の大学：職員の希望とリテラシー
寺﨑昌男他編著
四六判・並製・三三六頁・二五〇〇円

大学自らの総合力 II—大学再生への構想力
寺﨑昌男著
四六判・上製・二六四頁・二四〇〇円

アカデミック・アドバイジング：その専門性と実践
—日本の大学へのアメリカの示唆
清水栄子著
A5判・上製・二二四頁・二四〇〇円

大学の在り方・大学教育の質保証と評価

大学の問題とは何か、教養教育、学部教育、学問とは何か、学士力、大学院の現状、教育の評価を余す所なく語る中で、その未来が見えてくる。

新刊

大学教育の在り方を問う
山田宣夫著
四六判・上製・二四〇頁・二四〇〇円

アウトカムに基づく大学教育の質保証
—チューニングとアセスメントにみる世界の動向
深堀聰子編著
A5判・上製・三四四頁・三六〇〇円

新刊

高等教育の質とその評価—日本と世界
山田礼子編著
A5判・上製・二八〇頁・二八〇〇円

大学の数学、社会科、国語などの授業改善

新刊

大学教育の数学的リテラシー！
水町龍一編著
A5判・並製・三四四頁・三二〇〇円

社会を創る市民の教育
—協働によるシティズンシップ教育
大友秀明・桐谷正信編著
A5判・並製・二七二頁・二五〇〇円

最新刊

チュートリアルの伝播と変容
—イギリスからオーストラリアの大学へ
竹腰千絵著
A5判・上製・二〇〇頁・二八〇〇円

CT（授業協力者）と共に創る劇場型授業
—新たな協働空間は学生をどう変えるのか
筒井洋一・山本以和子・大木誠一編著
A5判・並製・二一六頁・二〇〇〇円

文字を手書きさせる教育—「書写」に何ができるのか
鈴木慶子著
A5判・並製・二六四頁・二四〇〇円

視写の教育—〈からだ〉に読み書きさせる
池田久美子著
A5判・並製・二四〇頁・二四〇〇円

アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換（8刷）
溝上慎一著
A5判・並製・二〇八頁・二四〇〇円

アクティブラーニング・シリーズ（各A5判）

総監修 溝上慎一 全7巻 同時発売中（セット価一〇〇〇〇円）

教授学習方法を生徒・学生が自ら学ぶ道程を、学校から大学まで大きな変化の火付け役として、学校や大学での具体的な教育方法を全七巻で展開するシリーズ、好評発売中。

1. **アクティブラーニングの技法・授業デザイン**
安永悟・関田一彦・水野正朗編
一五二頁・一六〇〇円
2. **アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習**
溝上慎一・成田秀夫編
一七六頁・一八〇〇円
3. **アクティブラーニングの評価**
松下佳代・石井英真編
一六〇頁・一六〇〇円
4. 改訂版 **高等学校におけるアクティブラーニング：理論編**
溝上慎一編
一四四頁・一六〇〇円
5. **高等学校におけるアクティブラーニング：事例編**
溝上慎一編
一九二頁・二〇〇〇円
6. **アクティブラーニングをどう始めるか**
成田秀夫著
一六八頁・一六〇〇円
7. **失敗事例から学ぶ大学でのアクティブラーニング**
亀倉正彦著
一六〇頁・一六〇〇円

新刊

大学のアクティブラーニング—導入からカリキュラムマネジメントへ
河合塾編著
A5判・並製・三九二頁・三二〇〇円

主体的学び 主体的学び研究所編
創刊号～第4号、別冊 以下続刊 各A5判・並製 一〇四頁・一八〇〇円

最新刊

別冊 高大接続改革号
創刊号 特集：パラダイム転換—教育から学習へ 一七六頁・一八〇〇円
第2号 特集：反転授業が全てを解決するのか 一六〇頁・一六〇〇円
第3号 特集：アクティブラーニングとポートフォリオ 一四四頁・一六〇〇円
第4号 特集：アクティブラーニングはこれでいいのか 二一六頁・二〇〇〇円

近刊

ICE理論と実践はなぜ有効か（仮題）
柞磨昭孝著

〒113-0023 東京都文京区向丘1-20-6
http://www.toshindo-pub.com
東信堂
TEL03-3818-5521 FAX03-3818-5514
Email tk203444@fsinet.or.jp［価格税別］

ごあいさつ

第20回という節目の大会を東北大学で開催することを、大会実行委員会一同嬉しく思っています。前回の第11回大会（2008年）から9年が経ちました。この9年間は、世界史を分岐する出来事が相次ぎました。まず、2011年3月11日の東日本大震災です。今も終息しない原発事故は、科学技術を公共的にコントロールする力が欠ける時には、どのような災厄がもたらされるかをリアルに示しました。しかし、事故直後に語られた、公共的統制がなく肥大化した科学技術への懸念は長続きせず、高等教育研究者の関心も惹かないようです。2011年は、イラク戦争は終焉したものの、シリア内戦が始まった年でした。ISの介入は、世界各国でのテロと、大規模な難民を生み出しています。この年からユーロ危機が深刻化し、難民問題と相まって、ヨーロッパでは一国ナショナリズムが広がり、イギリスのEU離脱、欧州各国での右派の台頭をもたらし、そしてトランプ米大統領の登場です。グローバリゼーションは富をもたらすのか格差を拡大するのか、という論争は終わりを告げ、国家間と一国内部の格差拡大は誰の眼にも明らかになり、OECDも2011年から格差拡大を分析する研究成果を公表し始めます。

真の問題は、経済格差と国際紛争が拡大しながらそれを調整し解決する政治力が弱まり、支える民主主義が弱体化していることです。イギリスの社会学者コリン・クラウチは、富裕層と大企業が政治への影響力を強め、民主主義は崩壊したとし、「ポスト・デモクラシー」（2007年）を論じています。

これらの事象は、高等教育と無縁ではなく、まさに今直面している課題です。教育を通じた階層間格差の是正は、アメリカにおいて「貧困への戦い」（1964年）以来、半世紀にわたるイシューです。また、大学は、科学研究の推進と研究者の養成、市民社会の担い手の育成を使命とし、どのような役割を果たすかが問われているのです。たとえば、欧米では、投票や市民活動への参加減少が問題視されていますが（パットナム『流動化する民主主義』2013年）、高等教育卒業者には積極面が観察されます。教育は社会問題解決の万能薬ではありませんが、よい教育なしによい社会を建設することも不可能です。

さて、この間の日本社会と高等教育の現実と研究です。学会には70件を超える自由発表の申し込みがあり、学会員が多様なテーマを通じて、高等教育の現実を解剖する研究に取り組んでいることがよくわかります。一方、日本の高等教育にとって最大の課題は、国立大学法人化に象徴される高等教育のガバナンス改革の帰趨ではないでしょうか。2003年の法人化から14年、国立大学のミッションの再定義と人文・社会学部の再編は、学生の選択行動などいわゆる「市場メカニズム」ではなく、政府による行政指導によって進行しています。また、国立大学経営力戦略（2015年）により推進されている大学の類型化は、機関単位の種別化であり、「将来像答申」（2005年）による「各大学が自主性・自律性に基づき機能別に分化」するものとは、明らかに違ったものです。なぜ、政策は転換したのでしょうか。

さらに、そもそも高等教育に市場メカニズムなど働くのでしょうか。サイモン・マージンソンは、There's still no such thing as a higher education market（Times higher Education, April 10, 2014）で、「市場とは、競争のメタファー（たとえ）であり、政治家にとっては、責任を政府から大学に移す言い訳なのだ」と述べています。日本ではメタファーですらないかもしれません。仙台で骨太の論議ができ、認識の深化をもたらすステージになることを期待しています。

日本高等学会第20回大会実行委員長
羽田　貴史（東北大学高度教養教育・学生支援機構教授）

大　会　日　程

5月26日（金）

16：00〜20：00	**理事会**	

5月27日（土）

9：00〜	**受　付**	（講義棟C棟1階　C106教室）
10：00〜12：00	**自由研究発表Ⅰ・国際特設部会**	（講義棟C棟1-2階教室）
12：00〜12：50	編集委員会打ち合わせ	（講義棟C棟2階　C203教室）
12：00〜13：00	公開シンポジウム打ち合わせ	（川北合同研究棟　101）
13：00〜15：00	**自由研究発表Ⅱ**	（講義棟C棟1-2階教室）
15：15〜18：15	**公開シンポジウム**	（マルチメディア教育研究棟M206）
	「世界的視座から改めて国立大学法人化を問う：外部ガバナンスとしての政府統制の変遷」	
18：30〜20：00	**懇親会**	（川内の杜ダイニング）

5月28日（日）

9：30〜	**受　付**	（講義棟C棟1階　C106教室）
10：00〜12：00	**自由研究発表Ⅲ**	（講義棟C棟1-2階教室）
12：00〜12：50	課題研究Ⅰ　打ち合わせ	（講義棟C棟2階　C203教室）
12：00〜12：50	課題研究Ⅱ　打ち合わせ	（講義棟C棟2階　C204教室）
12：00〜12：50	総会　打ち合わせ	（講義棟B棟1階　B104教室）
13：00〜13：30	**総　会**	（講義棟B棟1階　B101教室）
13：45〜16：15	**課題研究Ⅰ・Ⅱ**	（講義棟B棟1階）
	課題研究Ⅰ「大学教育の効用」	（講義棟B棟1階　B102教室）
	課題研究Ⅱ「大学の教育マネジメントとガバナンス」	（講義棟B棟1階　B103教室）

＊会場変更が生じた場合は、掲示等でご案内いたします。ご確認ください。

大会参加のご案内

ウェブサイト	最新情報は　http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp/jaher20/taikai.html　で提供しております。
参　加　費	大会参加費：6,000円（事前お支払いの方は5,000円） 懇 親 会 費：5,000円（事前お支払いの方は4,500円） * 会員でない方も臨時会員として、上記と同じ金額で参加できます。 **シンポジウムは無料で一般に公開します。
学会年会費	大会会場では、学会年会費の納入はできませんのでご了承ください。
入　　場	会場及び懇親会会場への入場は、必ずネームプレートをつけてください。原則としてネームプレートのない方は入場できません。なお、ネームプレートはお帰りの際に受付にお返しください。
呼 び 出 し	会場での呼び出しは行いませんのでご了承ください。
緊急連絡先	発表者が欠席する場合など、緊急の場合は、わかり次第、できるだけ早く大会実行委員会に E-mail にてお知らせください。 （大会実行委員会 E-mail：jaher20th@grp.tohoku.ac.jp）
資料のコピー	大会実行委員会によるコピーサービスは行いません。自由研究発表用の配布資料等は各自が必要な部数をご用意ください。
会 員 控 室	Ｃ棟１階の C104教室を予定しております。また書籍等の展示も会員控室を予定しております。
ク ロ ー ク	27日（土）は懇親会終了まで、28日（日）は16：15まで、Ｃ棟１階の C103教室で荷物をお預かりいたします。貴重品はご自身で管理いただくようお願いいたします。
昼　　食	大会期間中は大学内の食堂がご利用いただけますが、昼食時は混雑が予想されますので心配な方は各自でお弁当等をご持参ください。（参考「大学周辺飲食店案内」：http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp/jaher20/restaurant.html）
懇　親　会	27日（土）18：30―20：00に「川内の杜ダイニング」にて行います。是非ご出席ください。
喫 煙 場 所	学内は全面禁煙となっています。

発表者へのお願い

●発表および質疑応答時間

発表人数	発表時間	質疑応答時間
1 人	15分	5 分
2 人	30分	10分
3 人以上	40分	10分

＊全ての発表について、以下の要領で時間の目安をお知らせします。
【1鈴】発表終了 5 分前
【2鈴】発表終了時
【3鈴】質疑応答終了時

●発表用機械器具

大会会場には、プロジェクター及び PC（Windows）を用意します。当方で準備する PC を利用される場合は、Microsoft Office（.ppt/.pptx,.doc/.docx）および PDF（.pdf）であれば、基本的に対応可能です。発表ファイルを入れた USB メモリをご用意いただき、発表部会開始前に動作確認をしてください。ご自身の PC を利用される場合には、接続に必要な機器をご持参の上、発表部会開始前に動作確認をしてください。PC の接続には、アナログ RGB（D-Sub15ピン）および HDMI（Type A コネクタ）がご利用になれます。RGB ケーブル及び HDMI ケーブルは会場に備え付けられております。なお、必ずしもすべての持ち込み PC に対応出来るとは限らないことをご了承ください。

司会者へのお願い

●発表および質疑応答時間

予定時間を超過しないように時間管理をお願いします。

●総括討論

各部会の最後に総括討論の時間を設けておりますが、利用できる時間はそれぞれの部会によって異なっています。この時間の活用方法は司会者に一任しておりますので、臨機応変に対応していただきますようお願い申し上げます。

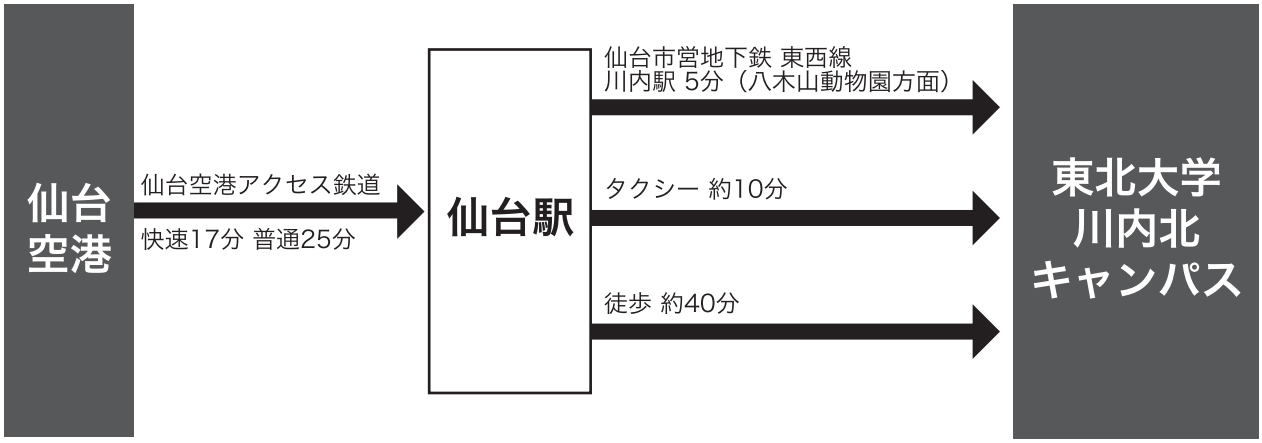
●緊急連絡先

発表者、司会者ともに、当日に緊急の連絡をしなければならない場合には、以下にお願いします。

大会事務局
E-mail：jaher20th@grp.tohoku.ac.jp

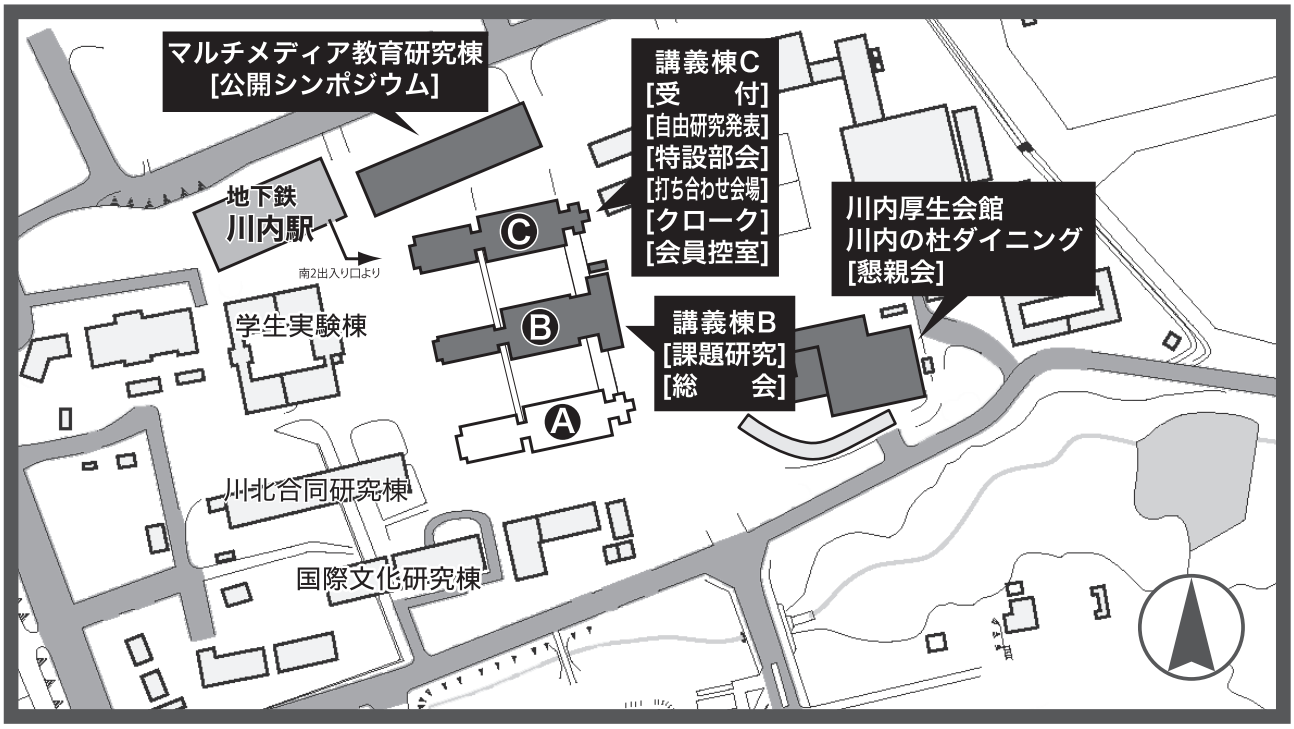
会場へのアクセス

東北大学川内北キャンパスまでの交通案内図

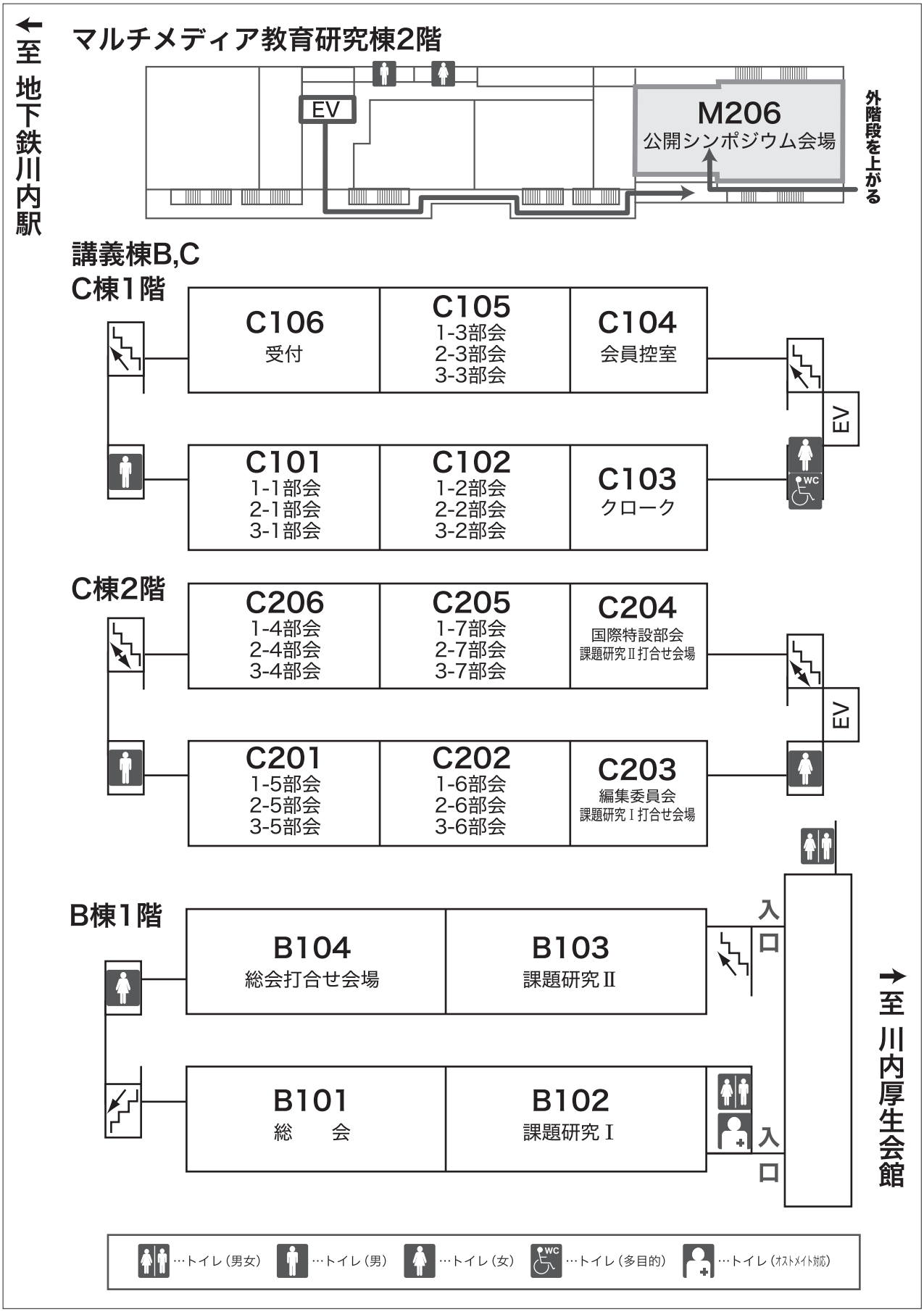


会　場　案　内

東北大学川内北キャンパス



大会会場の地図


至 地下鉄川内駅
マルチメディア教育研究棟2階
EV
M206
公開シンポジウム会場
外階段を上がる
講義棟B,C
C棟1階
C106
受付
C105
1-3部会
2-3部会
3-3部会
C104
会員控室
EV
C101
1-1部会
2-1部会
3-1部会
C102
1-2部会
2-2部会
3-2部会
C103
クローク
WC
C棟2階
C206
1-4部会
2-4部会
3-4部会
C205
1-7部会
2-7部会
3-7部会
C204
国際特設部会
課題研究Ⅱ打合せ会場
EV
C201
1-5部会
2-5部会
3-5部会
C202
1-6部会
2-6部会
3-6部会
C203
編集委員会
課題研究Ⅰ打合せ会場
B棟1階
B104
総会打合せ会場
B103
課題研究Ⅱ
入口
B101
総　会
B102
課題研究Ⅰ
入口
至 川内厚生会館
…トイレ（男女）
…トイレ（男）
…トイレ（女）
…トイレ（多目的）
…トイレ（オストメイト対応）

大会会場一覧

5月27日（土）

受付：９：00～
場所：C106

自由研究発表Ⅰ

C棟：10：00～12：00

C101	１－１部会	高等教育政策
C102	１－２部会	経済支援
C105	１－３部会	学習成果（1）
C206	１－４部会	専門性開発（1）
C201	１－５部会	学生参画・学生支援
C202	１－６部会	アジアの高等教育（1）
C205	１－７部会	教養教育
C204	国際特設部会	

自由研究発表Ⅱ

C棟：13：00～15：00

C101	２－１部会	組織の統合・連携
C102	２－２部会	大学経営
C105	２－３部会	学習成果（2）
C206	２－４部会	専門性開発（2）
C201	２－５部会	理論と実践
C202	２－６部会	研究大学
C205	２－７部会	国際化

公開シンポジウム：15：15～18：15
　マルチメディア教育研究棟 M206

懇親会：18：30～20：00
　川内の杜ダイニング

5月28日（日）

受付：９：30～
場所：C106

自由研究発表Ⅲ

C棟：10：00～12：00

C101	３－１部会	組織開発
C102	３－２部会	質保証
C105	３－３部会	学習成果（3）
C206	３－４部会	教育マネジメント
C201	３－５部会	米国の高等教育
C202	３－６部会	アジアの高等教育（2）
C205	３－７部会	大学と社会

総会：13：00～13：30
　B101

課題研究

B棟：13：45～16：15

B102	課題研究Ⅰ	大学教育の効用
B103	課題研究Ⅱ	大学の教育マネジメントとガバナンス

発表プログラム一覧

5月27日（土）～5月28日（日）

5月27日　10：00〜12：00　**自由研究Ⅰ**

C101　1-1部会

高等教育政策

司会：大場　　淳（広島大学）

10：00〜10：20　**学生の東京一極集中及び地方流出傾向の実態**
—東日本地域の大学に関するデータの時系列分析を通じて—
○有澤　尚志（文部科学省）

10：20〜10：40　**私立大学等改革総合支援事業が私立大学の教育活動に与える影響に関する実証研究**
○松宮　慎治（神戸学院大学）

10：40〜11：00　**大学改革の政策科学的考察（2）**
—改革の終息・安定を妨げるものは何か—
○山本　眞一（桜美林大学）

11：00〜11：20　**キャリア教育義務化の政策過程分析**
—イシューアプローチの視座から—
○宮田　弘一（広島大学）

11：20〜12：00　**総括討論**

C102　1-2部会

経済支援

司会：水田　健輔（大正大学）

10：00〜10：20　**学費負担と奨学金制度に対する社会意識の現状分析**
—給付型奨学金への社会的支持と合意範囲を中心に—
○白川　優治（千葉大学）

10：20〜10：40　**中国における学生経済支援の更なる拡充**
○王　　傑（東京大学）

10：40〜11：30　**大学進学機会の格差と学生等への経済的支援政策の課題**
—2016年高卒者保護者調査の分析—
○濱中　義隆（国立教育政策研究所）　○小林　雅之（東京大学）
○王　　師（東京大学）

11：30〜12：00　**総括討論**

C105　1 - 3 部会

学習成果（1）

司会：片瀬　一男（東北学院大学）

10：00〜10：20　**高等教育の質保証における学習成果の位置**
—国際比較と学習成果の可視化—
○塚原　修一（関西国際大学）　濱名　　篤（関西国際大学）
山口アンナ真美（北海道教育大学）

10：20〜10：40　**法学部教育における学修成果の研究**
○坂巻　文彩（九州大学）

10：40〜11：20　**学修支援における理論と実践、およびデータとの対話**
—信州大学における試み—
○加藤　善子（信州大学）　○李　　敏（信州大学）

11：20〜12：00　**総括討論**

C206　1 - 4 部会

専門性開発（1）

司会：中島　英博（名古屋大学）

10：00〜10：20　**日米比較調査アンケートから見たFD活動の実態とその相違**
○山崎　慎一（桜美林大学）　林　　透（山口大学）
深野　政之（大阪府立大学）

10：20〜10：40　**カリキュラムの実質化からみた大学教員の専門性開発**
—国立教員養成系大学を事例に—
○下田　　誠（東京学芸大学）

10：40〜11：30　**第三の領域に属する教職員養成の政策実施過程**
—分野を横断しての事例分析—
○二宮　　祐（群馬大学）　○小島佐恵子（玉川大学）
○浜島　幸司（同志社大学）　児島　功和（山梨学院大学）

11：30〜12：00　**総括討論**

C201　1 - 5 部会

学生参画・学生支援

司会：深堀　總子（国立教育政策研究所）

10：00〜10：20　**世界における「学生参画」の多義性**
○田中　正弘（筑波大学）

10：20〜10：40　**全学同窓会組織の母校在学生支援**
―実施状況調査から把握するその内容と傾向、校友育成事業への展開可能性―
○大川　一毅（岩手大学）　大野　賢一（鳥取大学）
嶌田　敏行（茨城大学）

10：40〜11：20　**大学図書館における学生協働の変遷**
○呑海　沙織（筑波大学）　○溝上智恵子（筑波大学）

11：20〜12：00　**総括討論**

C202　1 - 6 部会

アジアの高等教育（1）

司会：堀田　泰司（広島大学）

10：00〜10：20　**中国における大学類型別による人材育成の効果に関する研究**
―国立大学付属独立学院に着目して―
○潘　秋静（広島大学）

10：20〜10：40　**中国における学生の就職力と大学教育**
○鮑　威（北京大学）

10：40〜11：00　**韓国の大学評価の指標に対するキーワードネットワーク分析**
○宋　善英（韓国大学教育協議会）　劉　智賢（韓陽大学）

11：00〜11：20　**「ポジティブ・アクション」再考―大学教員採用における「属性」をめぐるポリティクスの日米韓比較**
○朴　炫貞（前東京大学・前日本弁護士連合会）

11：20〜12：00　**総括討論**

C205　1 - 7 部会

教養教育

司会：吉田　　文（早稲田大学）

10：00〜10：20　**現代の大学教育における「教養」概念の一考察**
—教養系学部の基本情報の分析を通じて—
○栗原　郁太（玉川大学）

10：20〜10：40　**共通教育科目の課題と挑戦**
○清水　　亮（神戸学院大学）

10：40〜11：00　**教養教育における個人の学びの成果の検討**
—大学設置別・大綱化前後の違いに焦点を当てて—
○姉川　恭子（早稲田大学）　　浦川　邦夫（九州大学）

11：00〜11：20　**高等専門学校における一般科目担当教員の所属組織の変遷**
○加藤　博和（米子工業高等専門学校）

11：20〜12：00　**総括討論**

C204 国際特設部会

Japan Association for Higher Education Research 2017
International Special Session

Researching on academic activities from global perspectives

10：00～12：00, Saturday, 27 May 2017
Tohoku University

Chair：Futao Huang (Hiroshima University)

10：00～10：05
Opening Remarks　Katsuhiro Arai (President of JAHER)

10：05～10：10
Introduction　Tatsuo Kawashima (Osaka University)

10：10～10：35
Trends of academic activities in Asia Pacific regions: humanities, science and technologies
Brigid Freeman (University of Melbourne)

10：35～11：00
Mobility, formation and development of the academic profession in science, technology, engineering and mathematics in East and South East Asia
Akiyoshi Yonezawa (Tohoku University)

11：00～11：25
Selectivity and concentration: On unintended consequences of performance-based funding for public research in higher education institutions
Ikuya Sato (Doshisha University)

11：25～12：00
Discussion

5月27日　13：00〜15：00　**自由研究Ⅱ**

C101　2-1部会

組織の統合・連携

司会：村澤　昌崇（広島大学）

13：00〜13：20　**国立大学第3期中期計画と国立大学の統廃合**
—法人化の目的（予算の削減と境域機能）の達成—
○磯田　文雄（名古屋大学）

13：20〜13：40　**コンソーシアム型大学間連携の分析枠組み**
—国際共同学位の事例から—
○野村　朋絵（広島大学）

13：40〜14：00　**フランスにおける大学間の連携・統合の現状と課題**
○大場　　淳（広島大学）

14：00〜14：40　**国立大学における人文・社会系学部の改組・新設**
—組織の編成とカリキュラム—
○小方　直幸（東京大学）　○立石　慎治（国立教育政策研究所）
島　　一則（東北大学）　串本　　剛（東北大学）

14：40〜15：00　**総括討論**

C102　2-2部会

大学経営

司会：大塚　雄作（大学入試センター）

13：00〜13：20　**私立大学における大学運営効率の規定要因に関する実証的研究**
○前田　一之（広島大学）

13：20〜13：40　**学校法人（私立大学）の持続可能な財政運営のあり方についての実証的研究**
—学校法人会計基準の改正がもたらす財務運営について—
○篠田　隆行（國學院大學）

13：40〜14：00　**日本の国立大学における機能強化のための運営費交付金配分方法の見直し**
○張　　慧嫻（早稲田大学）

14：00〜14：20　**大学設置基準大綱化以降の新設大学における定員充足の構造**
○西田亜希子（大阪市立大学）

14：20〜15：00　**総括討論**

C105　2 - 3 部会

学習成果（2）

司会：山田　礼子（同志社大学）

13：00〜13：20　**大学生の入学時における能力と学修成果に関する実証的研究**
—地方私立大学を事例として—
○真鍋　　亮（広島大学）

13：20〜13：40　**「考える力」をどう定義し、教育し、測定するか**
—日欧米における学問分野別学修成果アセスメントの取組を手掛かりに—
○深堀　聰子（国立教育政策研究所）

13：40〜14：00　**学修成果アプローチと学位・資格枠組みの政策科学的研究**
○吉本　圭一（九州大学）

14：00〜14：20　**フランス高等教育における分野別コンピテンス基盤型アプローチ**
—国家資格枠組み（NQF）の取組から—
○野田　文香（大学改革支援・学位授与機構）

14：20〜15：00　**総括討論**

C206　2 - 4 部会

専門性開発（2）

司会：山本　眞一（桜美林大学）

13：00〜13：20　**教職協働の活動領域と実践機会に関する研究**
—SD 義務化の中で教職協働を考える—
○深野　政之（大阪府立大学）

13：20〜13：40　**日本の大学関連団体におけるＳＤ**　—私立・国立・公立—
○高野　篤子（大正大学）　　杉本　和弘（東北大学）

13：40〜14：00　**IR 活動を通したスタッフ・ディベロップメント考**
—地方国立大学での取組実践を通して—
○林　　透（山口大学）

14：00〜14：20　**国立大学幹部職員人事に関する研究**
—法人化前後の変化動向—
○山田　貴光（鳥取大学）

14：20〜15：00　**総括討論**

C201　2 - 5 部会

理論と実践

司会：杉谷祐美子（青山学院大学）

13：00〜13：20　**医学教育における成人学習理論の受容**
－北米における「プロフェッショナル・アイデンティティ・フォーメーション」の議論を事例として－
○元濱奈穂子（東京大学）

13：20〜13：40　**アクティブ・ラーニング実施上の課題と解決策**
－コミュニケーションや対人関係を苦手とする学生への対応を中心に－
○小川　　勤（山口大学）

13：40〜14：00　**ゼミナールで学生はいかに学ぶのか**
－日本型学士課程教育の特性および学習共同体論の検証－
○西野　毅朗（京都橘大学）

14：00〜14：20　**昭和女子大学の実践型キャリア教育について**
－社会人メンター制度がメンター・学生双方にもたらす効果を中心に－
○小森亜紀子（昭和女子大学）　　木間　英子（昭和女子大学）

14：20〜15：00　**総括討論**

C202　2 - 6 部会

研究大学

司会：塚原　修一（関西国際大学）

13：00〜13：20　**研究大学の戦略に関する国際比較研究**
―戦略計画の KPI に着目したテキスト分析の可能性―
○福井　文威（政策研究大学院大学）
林　　隆之（大学改革支援・学位授与機構）
新見有紀子（一橋大学）　　宮本　岩男（資源エネルギー庁）
上山　隆大（政策研究大学院大学）

13：20〜13：40　**研究大学の自律と統制**
―カリフォルニア州高等教育再考―
○中世古貴彦（九州大学）

13：40〜14：00　**生命科学分野の基礎研究支援**
―研究支援の「効率性」と研究の「実質化」の関係―
○武居　ゆり（東京大学）

14：00〜14：20　**研究生産性を向上させたのは誰か**
○両角亜希子（東京大学）

14：20〜15：00　**総括討論**

C205　2 - 7 部会

国際化

司会：夏目　達也（名古屋大学）

13：00〜13：20　**高等教育の国際化の現在**
—スーパーグローバル大学創生支援事業、その先を見据えて—
○江原　昭博（関西学院大学）

13：20〜13：40　**会津大学の国際戦略**
○阿部　泰裕（会津大学）　山内　和昭（会津大学）

13：40〜14：20　**大学における国際化推進に関する研究**
—11年間の変化を中心として—
○大膳　司（広島大学）　○黄　福涛（広島大学）
米澤　彰純（東北大学）　大場　淳（広島大学）
秦　由美子（広島大学）

14：20〜15：00　**総括討論**

5月28日　10：00〜12：00　自由研究Ⅲ

C101　3 - 1 部会

組織開発

司会：小方　直幸（東京大学）

10：00〜10：20　**大学組織内における評価と改善の断絶に関する事例研究**
—データの活用と解釈プロセスの再構築—
○中島　英博（名古屋大学）

10：20〜10：40　**大学図書館の組織開発の歴史的展開と高等教育政策の変遷**
○村上　孝弘（龍谷大学）

10：40〜11：00　**近現代日本の新宗教系高等教育機関に関するその設置理由の検討を中心とした予備的考察**
○齋藤　崇徳（大学改革支援・学位授与機構）

11：00〜11：40　**2000年以降における私立大学の新増設過程**
—首都圏における立地と定員に注目して—
○遠藤　　健（早稲田大学）　　○上畠　洋佑（金沢大学）
沖　　清豪（早稲田大学）

11：40〜12：00　**総括討論**

C102　3 - 2 部会

質保証

司会：伊藤　彰浩（名古屋大学）

10：00〜10：20　**高等教育における質保証概念とその再定義**
—教授と学習の関係性の観点から—
○山田　　勉（立命館大学）

10：20〜10：40　**日本における内部質保証システムのあり方の検討**
—「内部質保証ガイドライン」の策定に向けて—
○林　　隆之（大学改革支援・学位授与機構）

10：40〜11：00　**内部質保証と PDCA**
—カリフォルニア大学バークレー校の取組を踏まえて—
○河本　達毅（文部科学省）

11：00〜11：40　**総括討論**

C105　3 - 3 部会

学習成果（3）

司会：沖　　清豪（早稲田大学）

10：00〜10：20　**日本の大学における国際化と中国人留学生の学習成果**
○三好　　登（大分大学）

10：20〜10：40　**初年次学生の学習成果の質保証に関する研究**
―学部別による違いに着目して―
○鈴木　雄清（大分大学）　長谷川祐介（大分大学）
三好　　登（大分大学）

10：40〜11：20　**日本の大学は学習成果をどう定義し測ろうとしているのか？**
―大学基準協会の調査結果から―
○山田　礼子（同志社大学）　○川嶋太津夫（大阪大学）
白川　優治（千葉大学）　今田　晶子（立教大学）
西　　誠（金沢工業大学）

11：20〜12：00　**総括討論**

C206　3 - 4 部会

教育マネジメント

司会：濱名　　篤（関西国際大学）

10：00〜10：20　**教務データを指標とした学生の将来予測の可能性と限界**
―データ分析手法の検討から運用上の課題まで―
○光永　悠彦（島根大学）

10：20〜10：40　**CAP 制は学生の履修行動をどのように変えたか**
―CAP 制導入の「意図せざる結果」―
○片瀬　一男（東北学院大学）

10：40〜11：00　**単位の等価性に関する問題**
○高村　麻実（大手前大学）

11：00〜11：20　**学位プログラムの多様性**
―米国研究大学の事例から―
○阿曽沼明裕（名古屋大学）

11：20〜12：00　**総括討論**

C201　3 - 5 部会

米国の高等教育

司会：福留　東土（東京大学）

10：00〜10：20　**米国巨大財団の高等教育政策へのインパクト評価**
—初期的報告—
○船守　美穂（国立情報学研究所）

10：20〜10：40　**アメリカ研究大学博士課程のベンチマーキング**
—NRC 評価データより—
○相原総一郎（芝浦工業大学）

10：40〜11：30　**米国州政府における高等教育政策と予算編成過程**
—経済状況の影響と利害関係者に着目して—
○水田　健輔（大正大学）　○山本　清（東京大学）
○渡部　芳栄（岩手県立大学）
○白川　展之（文部科学省技術・学術政策研究所）
島　一則（東北大学）

11：30〜12：00　**総括討論**

C202　3 - 6 部会

アジアの高等教育（2）

司会：大塚　豊（福山大学）

10：00〜10：20　**アジアにおける高等教育研究**
—その到達点と課題—
○米澤　彰純（東北大学）

10：20〜10：40　**台湾の奨学金政策**
—所得連動に結び付けた学生援助制度—
○黄　文哲（兵庫大学）

10：40〜11：00　**国家主導型アカデミック・リーダー育成の取り組み**
—マレーシア AKEPT を事例に—
○佐藤　万知（広島大学）

11：00〜11：40　**中進国タイの高等教育発展モデル**
○吉永契一郎（金沢大学）　○堀井　祐介（金沢大学）

11：40〜12：00　**総括討論**

C205　3 - 7 部会

大学と社会

司会：稲永　由紀（筑波大学）

10：00〜10：20　**大学アーカイブズとしての「黒田チカ資料」**
○黒田光太郎（九州産業大学）

10：20〜10：40　**大学の地域教育による地域志向人材の育成**
―非大都市圏一貫型の社会科学分野の大卒就業者に着目して―
○小山　　治（徳島大学）

10：40〜11：00　**地域コミュニティ再生に向けた大学の役割**
―公・学・地域の連携への提言―
○西村　淳暉（柊野町内会連合会・柊野社会福祉協議会）

11：00〜11：20　**大卒無業者と経済成長**
―都道府県パネルデータによる接近―
○橋本　圭司（追手門学院大学）

11：20〜12：00　**総括討論**

公開シンポジウム　5 月 27 日　15：15〜18：15
会場：マルチメディア総合教育研究棟 M206

世界的視座から改めて国立大学法人化を問う

〜外部ガバナンスとしての政府統制の変遷〜

National Universities' *Incorporation* Revisited from Global Perspectives

- Changing government control as *external governance* -

2004 年 4 月，国立大学は，法人化という制度的変化を経験した。この変化は，文部科学省の公式説明によれば，大学運営における自律性の増大を意味するものとされた。同時に，各国立大学法人は，目標・計画と評価のサイクルによって新たなアカウンタビリティーを問うシステムの下に置かれた。

世界的には，1980 年代のレーガノミクスやサッチャリズムに代表される規制緩和，公共部門の民営化，競争や企業的経営の導入等の政策潮流は，　グローバル化の進展した 90 年代以降，市場化，新自由主義（ネオリベラリズム），新公共経営（ニュー・パブリック・マネジメント），私事化（プライバタイゼーション）等の呼称を伴いつつ，アングロサクソン諸国から世界各国へ波及し，高等教育においても，機関の経営的自律性の拡大，基幹的機関助成の削減，研究評価と資源配分への連動，教育の質保証など，様々な政策手段が同型的モデルとして普及したといわれる。

日本の国立大学法人化も，こうした世界的潮流の一環として論じられることが多かった。しかし，その妥当性は，批判的に吟味されるべきである。その特異性は，公務員数削減等ダウンサイジングと結び付いた独立行政法人制度という生い立ちに遡る。また，学位課程の設置や学生定員の管理，政策手段としての年度予算など，法人化によって変わらなかった政府統制もある。

法人化後 13 年が経過した現在，高等教育政策は大きな変容を遂げている。小泉政権以来の官邸主導の政策形成，経済政策としての大学改革，民主党政権下における事業仕分け，学問分野や内部組織まで細かく統制する国立大学のミッションの再定義，大学の種別化など，様々な変化の方向性は，法人化が謳った大学の自律性から政府の直接統制への回帰のようにも見える。特に，教授会の権限を限定する大学ガバナンス改革論議と 2014 年の学校教育法等の改正は, 大学の内部ガバナンスに焦点を当てる一方, 政府・大学間関係としての外部ガバナンスに関する政策論議は，ほとんど見られない。

世界的な視座から，改めて法人化とは何であったかを問い，近年の高等教育政策を評価し，今後の在り方を真摯に探ることは，高等教育研究に課せられた学問的責任というべきである。以上の視点から，シンポジウムを４つの報告で構成し，議論を深める。

＜報告者＞

1. 国立大学法人化を含む高等教育改革による政府・大学間関係としての外部ガバナンスの変化，その評価，及び今後の課題
Fujio OHMORI (Tohoku University)

2. 国際的視点から見た米国の高等教育政策と大学ガバナンス
David D. DILL (University of North Carolina at Chapel Hill)

3. 高等教育のガバナンス変容に関する国際比較：欧州諸国の場合
Michael DOBBINS (Goethe University of Frankfurt)

4. 東アジア諸国における高等教育：制度と市場の多様性とその文化的背景
William Yat Wai LO (The Education University of Hong Kong)

＜司　会＞ 米澤　彰純（東北大学）　　杉本　和弘（東北大学）

課題研究Ⅰ　5月28日　13：45～16：15
会場：B102

大学教育の効用

＜趣　旨＞

課題研究Ⅰでは昨年に引き続き，現状の教育投資の正当性に対する社会的要請（アカウンタビリティー）への対応，さらには教育に対する公財政支出（拡大）のためのエビデンスの提示，という観点から「大学教育の効用」をテーマに取り上げる。１年目は，主として経済的効用（経済成長や個人の生産能力・所得の向上に対する教育の効果）に焦点を当て，①教育投資収益率研究の動向・課題からの展開，②大学における教授・学習経験の経済的効用，③大学教育の外部効果に関する研究，と題する３つの報告を受けた。

２年目となる今年度は，昨年の課題研究での報告者からの問題提起やフロアとの議論を踏まえて，積み残した論点をさらに深める議論を展開することを目指したい。

第１報告では，そもそも（大学教育の）「効用」とはいかなる概念であるのかについて，ミクロ経済学の立場から理論的な検討を加える。従来の高等教育研究では，収益率研究に代表されるような教育投資に対する「効果」の同義語として，「効用」を捉える傾向にあるという（この課題研究のテーマ設定自体が，そうした混同をしていることも否めない）。しかし，本来の意味での「効用」概念は，「幸福」，「満足」として定義付けられる性格のものであり，必ずしも金銭的価値の大きさで把握する必要がないことを指摘する。その上で，経済学における「効用」の理論を適用することで（一定の制約条件下での効用最大化問題として定式化することで），高等教育研究の領域においていかなる示唆を得られるかについて議論する。

第２報告では，経済的効用に還元できない大学教育の効用の把握を取り上げる。これまで教育の効用に関する研究は実証性という点で経済学がリードしてきたこともあり，賃金・所得，職位（昇進）など比較的容易に測定可能な客観的指標を従属変数として，教育の影響力を推計するタイプの研究が主流であった。こうした従来の傾向に対して，近年では経済学分野においても「幸福の経済学」が注目を浴びるなど，社会学あるいは社会政策学的な視点を取り込んだ実証分析が不可欠との認識が高まっていることが指摘された。教育の効用は社会関係資本の形成や市民性の向上のような金銭的価値に還元できない領域に及ぶ。こうした側面の実証研究でこれまで何が明らかにされているのか，今後の展開可能性はどのようなものであるかを報告いただく。

第３報告では，教育による効用の配分システムと教育費負担のあり方について論じる。教育の効用は，仮にそれが十分大きなものであったとしても，教育機会に格差があれば，結果として，教育の効用としての所得分配や外部効果にも，教育を受けた者と受けられない者の間で格差が生じる。このことは教育費負担のあり方にも影響を及ぼすだろう。教育の効用の「測定」と，社会的配分システムの構造，教育の費用負担のあり方を一体のものとして捉えるための見取り図を，既存の研究のレビューを含めて提示していただく。

＜報告者＞

1.「効用」と「効果」－ミクロ経済理論と高等教育研究の乖離－
渡邊　聡（広島大学）

2. 大学教育の非金銭的効用－時間選好率と健康に焦点を当てて－
日下田岳史（大正大学）

3. 教育による所得再分配と格差・教育費負担のあり方
小林　雅之（東京大学）

＜司　会・趣旨説明＞　濱中　義隆（国立教育政策研究所）　　吉田　文（早稲田大学）

課題研究Ⅱ　5 月 28 日　13：45～16：15
会場：B103

大学の教育マネジメントとガバナンス

＜趣　旨＞

昨年度の課題研究では，(1) ガバナンス，マネジメント，リーダーシップの概念区別と概念整理，(2) 教育マネジメントと学生調査データの活用，(3) 大学教員の活動から見たマネジメントの課題の３つについて検討した。教育マネジメントに関する論点整理としては，包括的な情報が提示され，課題の構造は整理されたと思われるが，個別の論点に対する質問や意見が多く出され，本来は関連があるはずの３つの報告をつなぐ議論が十分できなかった点に課題が残った。

教育改革をさらに進めるために，政策的には，３ポリシーによる構造化や，シラバス，ナンバリングなどの小道具，教学ＩＲの確立，学修成果の測定，学生に豊かな経験を与える学生支援，そうした一連の改革を推進するためのガバナンス改革などが焦点となっている。そうした改革を実際にどのように機関レベルで効果的に推進するのかについては，個々の大学の共通性と差異性があると考えられ，その具体像を明らかにしていく必要がある。

特に，マネジメント研究は，組織，動機づけ，意思決定，コミュニケーションなど個々の要素を分解して検討するだけでなく，要素間の関連性を含めたメカニズム全体に焦点を当てる統合した視点が不可欠であり，そのためには，具体事例を検討することが有効である。経営学の分野においても，ケース・スタディと理論化の往復関係の重要性は指摘されているとおりである。

こうした問題意識から，今回の課題研究では，教育マネジメントの組織やメカニズム（PDCA）等の現状と課題について，個別事例を報告いただく。事例は，大学の設置形態，規模などの多様性を配慮して選定を行った。

３名の報告者には，それぞれの所属大学の事例について，①大学の教育課題は何か，②そのためにどのような教育改革をしているのか（インプット，プロセス，アウトプット），③それを実現するうえでの組織的な工夫と課題について発表してもらい，当日は，教育改革を進めるためのガバナンス改革，マネジメントを進めるための工夫やツールといった観点から，多くの参加者との議論を通じて，考察を深めることにしたい。

＜報告者＞

1. 金沢大学（国立総合大学で大規模な教員組織改革をベースに）
堀井　祐介（金沢大学）

2. 立命館大学（私立総合大学におけるカリキュラムマネジメントを切り口に）
鳥居　朋子（立命館大学）

3. 尚絅学院大学（地方小規模大学における学生募集政策と出口を切り口に）
黄　梅英（尚絅学院大学）

＜司　　会＞　羽田　貴史（東北大学）
＜指定討論＞　両角亜希子（東京大学）

日本高等教育学会第20回大会プログラム

発行日：2017年４月28日
発行者：日本高等教育学会第20回大会実行委員会

委　員　長　　羽　田　貴　史
副委員長　　大　森　不二雄
副委員長　　杉　本　和　弘
事務局長　　猪　股　歳　之
事務局次長　　串　本　　剛
事務局員　　岡　田　有　司
　　川　面　き　よ
　　松　河　秀　哉
　　水　松　巳　奈
　　山　内　保　典

委　　員　　阿　部　泰　裕　　石　井　光　夫
　　石　井　美　和　　大　川　一　毅
　　片　瀬　一　男　　佐　藤　直　由
　　島　　一　則　　白　旗　希実子
　　関　内　　隆　　高　森　智　嗣
　　田　中　光　晴　　中　島　夏　子
　　西　出　優　子　　山　内　和　昭
　　米　澤　彰　純　　渡　部　芳　栄　（敬称略、五十音順）

日本高等教育学会　第20回大会実行委員会
〒980-8576　宮城県仙台市川内41
東北大学高度教養教育・学生支援機構気付
E-mail：jaher20th@grp.tohoku.ac.jp
大会ホームページ：http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp/jaher20/taikai.html

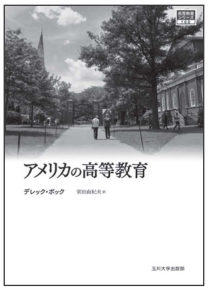
大学教育再生とは何か
――大学教授職の日米比較

有本章 著
A5判上製・592頁　本体6200円

中世の大学から近代の大学に至る歴史に学びつつ、米国と比較した日本の大学や大学教授職の現状と課題を社会学的に分析する。

アメリカの高等教育

デレック・ボック 著　宮田由紀夫 訳
A5判上製・552頁　本体5800円



ハーバード大学学長を務めた著者が、アメリカの高等教育を包括的に分析。大学が果たす本質的役割を問い、現在直面する問題や挑戦を考察する。

高等教育の社会学

パトリシア・J・ガンポート 編著
伊藤彰浩・橋本鉱市・阿曽沼明裕 監訳
A5判上製・480頁　本体5400円

高等教育研究はどのような進展を見せたのか。バートン・クラークの研究成果を受け継ぎ、第一線の研究者15名が変遷と可能性を論じる。

大学IRスタンダード指標集
――教育質保証から財務まで

関東地区IR研究会 監修
松田岳士・森雅生・相生芳晴・姉川恭子 編著
B5判並製・296頁　本体2800円

汎用性と将来における活用性に着目した139の指標を取り上げ、活用例、算出方法、必要なデータなどを見開きで示す。IR担当者必携。

大学のFD Q&A

佐藤浩章・中井俊樹ほか 編
A5判並製・208頁　本体1600円

専門用語をできるだけ使わず、実践に直結した具体的なノウハウを集約する。FDの効果的な進め方をまとめ、現場のリアリティを反映した1冊。

学生の学びを測る
――アセスメント・ハンドブック

リンダ・サスキー 著　齋藤聖子 訳
B5判並製・314頁　本体5000円

学習成果アセスメントの計画策定から、ルーブリックやテストなどツールの使い方と結果の分析・活用まで、アセスメントを大学文化として根付かせる方法を解説。

シリーズ 大学の教授法（全6巻）

2 講義法〈近刊〉

佐藤浩章 編著
A5判並製・232頁　本体2400円

これから教員になる人や現役教員に向け、講義法の基礎的な知識を提供する。心理学、脳科学、教育学などに裏付けられた内容で、実践を批評的に振り返ることができる。

1 授業設計　中島英博 編著〈既刊〉
3 アクティブラーニング　山田剛史 編著〈続刊〉
4 学習評価　中井俊樹 編著〈既刊〉
5 研究指導　近田正博 編著〈続刊〉
6 授業改善　栗田佳代子 編著〈続刊〉

日本高等教育学会 編

高等教育研究

1 高等教育研究の地平＊
2 ユニバーサル化への道＊
3 日本の大学評価＊
4 大学・知識・市場＊
5 大学の組織・経営再考＊
6 高等教育　改革の10年
7 プロフェッショナル化と大学
8 学士学位プログラム
9 連携する大学＊
10 高等教育研究の10年＊
11 大学生論＊
12 変容する大学像
13 スタッフ・ディベロップメント＊
14 高大接続の現在＊
15 高等教育財政
16 高等教育研究の制度化と課題
17 大学教育のマネジメントと革新＊
18 高等教育改革　その後の10年
19 高等教育研究におけるIR

20 高等教育研究のニューフロンティア〈近刊〉

＊品切　オンデマンド対応本

玉川大学出版部
〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1　TEL 042-739-8935　FAX 042-739-8940
http://www.tamagawa-up.jp/
［価格税別］

UCHIDA

授業収録に合わせて講師や学生の反応を、瞬時に記録・再生ができるフィードバック支援ツール。

映像 ＋ マーキング ＋ グラフ ＋ テスト／アンケート

新しい学びの空間

PF-NOTE v4

POWER FEEDBACK NOTE

内田洋行

プライバシーマーク 10480001

いい「学校・教育・授業」づくりを支援いたします。

http://school.uchida.co.jp/

東京	〒135-0016	東京都江東区東陽2-3-25	☎ 03(5634)6402
仙台	〒983-0852	仙台市宮城野区榴岡2-4-22 仙台東口ビル6F	☎ 022(292)2783
大阪	〒540-8520	大阪市中央区和泉町2-2-2	☎ 06(6920)2641
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2-2-2 名古屋丸紅ビル13F	☎ 052(222)7234
札幌	〒060-0031	札幌市中央区北1条東4丁目1-1	☎ 011(214)8630
福岡	〒810-0041	福岡市中央区大名2-9-27	☎ 092(735)6240

「基礎学力の強化」は ラインズにお任せください。

e ラーニングで入学前から就職までトータルサポート！

入学前
学習習慣の継続
基礎学力の強化

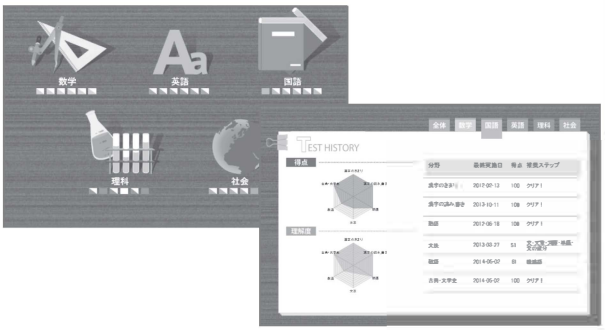
入　学

初年次
基礎科目との連携
学力不足中退防止

就職準備
資格試験や一般常識
試験の対応力アップ

就　職

ラインズドリル　リメディアル教育用 e ラーニングサービス



５教科の基礎・基本を効率良く学び直せます。
学習分野毎に「実力診断テスト」で学習者の理解度を判定。
PC だけでなく、各種スマホやタブレットに対応し、
場所を選ばずご利用いただけるので、利用率が高くなります。
入学前から初年次教育、就職準備まで、一貫して取り組める
e ラーニングです。
オリジナル教材を作成して出題できる「課題作成・出題機能」
を新たに搭載し、専門科目や資格試験対策にも活用できます。

LINES
学ぶチカラを、未来のチカラに

〒169-0051　東京都新宿区西早稲田2-20-15　高田馬場アクセス4F
TEL：03-6861-6200　FAX：03-6861-6006　e-mail：remedial@education.jp
http://www.education.jp/

アクティブラーニング型授業としての反転授業
森 朋子・溝上慎一 編
日本の大学で行われている反転授業の様々な取り組みを理論編・実践編としてまとめた必携書。【理論編・実践編】各２６００円

大学生の主体的学びを促すカリキュラム・デザイン
アクティブ・ラーニングの組織的展開にむけて
日本高等教育開発協会他 編
多様なケーススタディから見えてきたカリキュラム改定の方向性。　２４００円

アクティブラーニングを創るまなびのコミュニティ
大学教育を変える教育サロンの挑戦
池田輝政・松本浩司 編
授業改善・教育改革をめぐって多様な人びとがストーリーを語り合う。　２２００円

かかわりを拓くアクティブ・ラーニング
共生への基盤づくりに向けて
山地弘起 編著
メッセージ・テキスト、学習の意義、実践事例、授業化のヒントを紹介。　２５００円

ラベルワークで進める参画型教育
学び手の発想を活かすアクティブ・ラーニングの理論・方法・実践　林 義樹 編
多くの実践者たちに定評あるアクティブ・ラーニングの理論、方法、実践。　２９００円

自己発見と大学生活
初年次教養教育のためのワークブック
松尾智晶 監修／中沢正江・松尾智晶 著
アカデミックスキルの修得を意識しながら「自分の方針」を表現し合い、問いかけ、学ぶための初年次テキスト。　１５００円

アメリカの大学に学ぶ学習支援の手引き
日本の大学にどう活かすか
谷川裕稔 編
アメリカにおける学習支援の歴史と実践について整理し活用へと導く。　２４００円

大学におけるeラーニング活用実践集
大学における学習支援への挑戦２
大学eラーニング協議会 他監修
実践と方法、効果の評価についての知見をまとめ様々なノウハウを紹介。　３４００円

課題解決型授業への挑戦
プロジェクト・ベースト・ラーニングの実践と評価
後藤文彦 監修／伊吹勇亮・木原麻子 編著
高評価を得ている三年一貫授業の事例を包括的に紹介し、日本における課題解決型授業の可能性を拓く。　３６００円

大学におけるアクティブ・ラーニングの現在
学生主体型授業実践集
小田隆治 編
国内でのその多様な事例と、導入のヒントとなる実践集。　２８００円

授業に生かすマインドマップ
アクティブラーニングを深めるパワフルツール
関田一彦・山﨑めぐみ・上田誠司 著
様々な場面で生かせるマインドマップ活用法を分かりやすく解説。　２１００円

教養教育の再生
林 哲介 著
教育答申や財界の意見等を批判的に読み解きながら教養教育の変容をふりかえり、何が欠落してきたか、あるべき姿とは何かを提言する。　２４００円

ナカニシヤ出版
〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15　＊税抜価格
tel:075-723-0111 fax:075-723-0095　www.nakanishiya.co.jp/